

答申のことば

本審議会は、平成27年6月に第6次尾花沢市総合振興計画 後期基本計画の策定について市長より諮問を受け、これからの尾花沢市のまちづくりの方向性について、前期基本計画の施策の検証や「元気な尾花沢を語る会」のご意見等を踏まえ、慎重に審議を重ねてきました。審議会では平成27年10月に総合戦略、並びに人口ビジョンについて答申を行ってきたところですが、後期基本計画についてもこのたび市民と行政が協働して未来に誇れる元気なまちづくりを進めていくための指針として適切であるとの結論を得ましたので審議を終了し、答申いたします。

第6次尾花沢市総合振興計画は平成23年3月に策定され、平成32年度までの尾花沢市のあるべき姿とそれを具体的に推し進めるための指針を示したものです。基本構想に掲げたまちの将来像「夢かがやき 絆でむすぶ 元気創造のまち 尾花沢」の実現に向け、行政と互いに協力し合いながら、住民の立場としてまちづくりに参加してきました。元気なまちづくりの芽は着実に育まれているものと感じております。

一方で、少子高齢化に伴う人口減少は目に見える形で加速するなど、本市を取り巻く状況はここ数年で大きく変化し、想定や見通しをはるかに超えて地域社会に影響を与えています。

こうした課題に対し、新たな時代に対応した後期基本計画を市民と行政が一体となって推進することにより、元気なまちづくりの芽が大きく育ち、大輪の花を咲かせるものと信じております。

今後、地域で培われてきた「絆」をもとに、「元気」を「創造」しながら、豊かな未来に向けてはばたく、「夢」と愛着の持てる尾花沢市となるよう心より期待いたします。

最後になりましたが、丁寧に審議を尽くしていただいた総合企画審議会委員の皆様、並びにご協力をいただきました関係各位に感謝を申し上げ、答申のことばといたします。

平成28年3月



尾花沢市総合企画審議会会長
菅原 光政

発刊にあたって

平成23年3月に「元気おばなざわ創造プラン（第6次尾花沢市総合振興計画 基本構想・前期基本計画）」を策定し、基本構想において、「夢かがやき 絆でむすぶ 元気創造のまち 尾花沢」を将来像に掲げ、平成23年度から32年度までの10年間のまちづくりの指針として、その実現に向けて市民と行政が協働してまちづくりを進めてまいりました。

元気おばなざわ創造プランの基本計画は、前期計画期間の5ヶ年間で平成27年度をもって終了するため、前期計画の施策の検証を行うとともに、検証結果や本市を取り巻く新たな課題などを考慮して見直しを行い、このたび新たに平成28年度から32年度までの後期基本計画を策定いたしました。

後期計画では、基本構想に掲げた7本の大きな柱を継承しつつ、平成27年10月に策定した総合戦略の5つの基本目標と連動させながら、人口減少社会に対応した更なる施策の展開を図ってまいります。

本市におきましては、人口の減少が自然減と社会減の双方の要因により加速する中、人口減少への対策、地域経済の活性化、さらには安全・安心で元気な地域社会の形成などが課題となっております。

人口が減っても、いかに地域が元気であり続けられるかが重要であると捉え、「元気な尾花沢を語る会」をはじめとする対話の機会を大切にしながら市政に取り組んでまいりました。かつてはどこの地域でも根付いていた「結」の精神は地域における話し合いの場を設けることで見直され、「絆」を創り、「地域づくり」に対する機運が醸成されております。

今後、元気ある尾花沢をつくり上げていくためには、行政の力だけで成し得るものではなく、市民と行政が力を合わせ、まちづくりに取り組んでいくことが必要であります。

この計画を基本として、将来像に掲げた尾花沢の実現に向け、市民の皆様とともに躍進してまいりたいと考えておりますので、ご理解、ご協力をお願い申し上げます。

結びに、本計画の策定にあたり貴重なご意見やご提案をお寄せいただきました総合企画審議会委員並びに市議会議員の皆様をはじめ、関係各位に深く感謝を申し上げます。

平成28年3月



尾花沢市長
加藤 國洋